

ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

メルティング・ゾーン

## 今村 源・袴田京太郎・東島 毅 「Melting Zone」 展覧会開催のご案内

IMAMURA Hajime, HAKAMATA Kyotaro, HIGASHIJIMA Tsuyoshi : Melting Zone



日本の現代美術界をリードする3名の作家、今村 源・袴田京太郎・東島 毅による大規模なジャム・セッション展を開催します。

平面作品でありながら、尋常ではない重量感。東島毅は、筆致の交錯、色彩の堆積といった抽象絵画の豊かさに加え、圧倒的かつ制御不能な時空間をも創り出すモンスター・ペインターです。ブラックホールのごとく、何もかもを丸ごと引きずり込んで身体感覚を覆い尽くす巨大絵画や、濃厚な色彩を重ねたドローイング、天を仰ぎ風雨も受け容れるダイナミックな屋外での絵画展示などを持ちこみ、私たちを「空の状態」へと導きます。

まっさかさまにダイブする人、浮遊するキノコや増殖する菌糸など。線材を多用したユーモラスな造形やインスタレーションを手掛ける今村源は、夢幻のような無重力感の中でこの世の生死を問いかけます。キノコ性と私性とを往還しながら日々制作するという今村は、目に見えない地下世界に張り巡らす菌糸をなぞるかのように、東島たちの作品に絡みつき、大きな連続性で連結させて、不規則に曲がった線を室内外へと伸ばしていきます。

機能、理由、偶然、不条理、日常、つくる、汚れる…。袴田京太郎は、同時多発的にこれらを駆使して自らの価値観を明るく壊し、彫刻のリアリティを追求し続けています。通常は彫刻にならないような既製品や骨董オブジェを用いて、その一部を切り出し、カラフルなアクリル板などの異素材に接合させる複製シリーズの数々を配しながら、東島と今村、そしてギャラリーという、それぞれのリアルな重力に立ち向かう彫刻で、見る者に揺さぶりを掛けます。

本展は、キュレーションや評論も積極的に手掛ける袴田京太郎の提案により、重力感の異なる3作家をるつぼの中で大胆にも混ぜ合う企画としてスタートしました。ギャラリーの3つの展示空間と中庭を用いて、3作家は各々の自己を起点に棲み分けしつつも、互いに好んで侵蝕しあう展示プランを構想。しかし混ざり合わんとも拮抗して...!? はじまりもおわりもなく、作品同士が、各々の過去・現在・未来の時間までを侵蝕し合います。

展覧会のオープンまで、彼らのプランニング・パスは投げ続けられ、各々の思惑は溶け流れていき、一体どんなハプニングが起こるのか計り知れません。それぞれの表現と重力(リアル)が往還し、超然と自立した心地よいカオスをぜひご高覧ください。

【参考画像】(左より)今村 源 "VOID—通路あるいは音として—" 会場風景 | 2011年5月, ギャラリーノマル, 大阪 | 作品素材は、ステンレス針金、アルミニウム針金、樹脂、塗料、着色砂 他 / 袴田京太郎(左)《ギター—複製1》2010 | 59×18×10 cm / (右)《ギター—複製2》2011 | 68×15×11 cm | アクリル板、置物 | 撮影:加藤健 / 東島 毅 "野村和弘/東島毅 みることをかんがえる" 会場風景 | 2010年10月, いわき市立美術館, 福島 | (右壁画)《約束としての絵》2008 | 379.4×1,808 cm | 油彩、アクリル、キャンパス / (左壁画)《雨がやんで》2010 | 504×382 cm | 油彩、アクリル、ガラス、キャンパス / (手前床)《通り過ぎる場所としての絵画》2006 | 608.5×384 cm | 油彩、ハウスペイント、スプレーペイント、キャンパス

### 【展覧会概要】

メルティング・ゾーン

タイトル: 今村 源・袴田京太郎・東島 毅 「Melting Zone」

会 期: 2012年5月5日 [土・祝] ~ 6月2日 [土] \*日・月・祝 休廊

会 場: アートコートギャラリー 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開館時間: ◆初日はレセプションのみ 5月5日 [土・祝] 16:00 ~ 18:00

◆5月8日より 11:00 ~ 19:00 (土曜日は 11:00 ~ 17:00)

主 催: アートコートギャラリー

協 賛: 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、株式会社三菱地所プロパティマネジメント

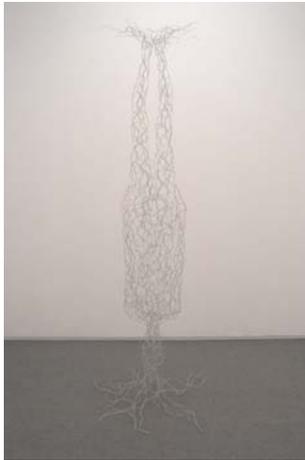


東島 毅《ドローイング》2011 | 106.7×78.5 cm | 油彩、紙

◎お問い合わせ: アートコートギャラリー 八木・大場 ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

## ◆ 今村 源 (IMAMURA Hajime)



「この樹の死たわワタ始ノ器ノコ」より  
2010.10 信濃橋画廊, 大阪  
(作品素材は、ステンレス針金、塗料)

### | 略歴 |

- 1957 大阪府生まれ
- 1981 京都市立芸術大学彫刻科卒業
- 1983 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

### | 主な個展 |

- 2011 『VOID - 通路あるいは音として』ギャラリーノマル, 大阪
- 2010 『この樹の死たわワタ始ノ器ノコ』信濃橋画廊, 大阪 [05『受動性』]
- 2009 『わたしにキク』ギャラリーノマル, 大阪
- 2006 『ドローイング+物』ノマル・プロジェクトスペースcube&loft, 大阪  
『三つの個展: 伊藤存×今村源×須田悦弘』国立国際美術館, 大阪  
『連菌術』伊丹市立美術館, 兵庫
- 2005 『受動性』ノマル・プロジェクトスペースcube&loft, 大阪  
『うたかたさんぽー今村源とこどもたち』京都芸術センター  
『life/art'05』資生堂ギャラリー, 東京
- 2003 『「外」の場所』ノマル・プロジェクトスペースcube&loft, 大阪
- 2001 『あるカタチ』信濃橋画廊5, 大阪
- 2000 『今日の作家シリーズ34 運動場一行き来する為に』大阪府立現代美術センター

### | 主なグループ展 |

- 2007 『I meets 今村源+森泰三』海岸通ギャラリー・CASO, 大阪
- 2006 『再生一孕む彫刻』ギャラリーほそかわ, 大阪  
『レゾー 透膜の兆し; 今村源+児玉靖枝』Oギャラリーeyes, 大阪
- 2005 『昨日よりワクワクしてきた。プリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち』  
国立民族学博物館, 吹田, 大阪
- 2004 『life/art'04』資生堂ギャラリー, 東京 [03, '02, '01]  
『六本木クロッシング: 日本美術の新しい展望 2004』森美術館, 東京

他 個展、グループ展多数

## ◆ 袴田 京太郎 (HAKAMATA Kyotaro)



《Rising Smoke 1》《Rising Smoke 2》  
2011 | 各 282×12×15 cm | アクリル板  
写真提供: 静岡市美術館 | 撮影: 加藤健

### | 略歴 |

- 1963 静岡県生まれ
- 1987 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
- 1994-95 文化庁芸術家在外研修員として渡米, フィラデルフィアに滞在
- 1996-97 五島記念文化賞美術新人賞受賞による海外研修として  
中国、チベット、ネパール他に滞在
- 2012 第22回タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞受賞

### | 主な個展 |

- 2011 『Shizubi Project 1「人と煙と消えるかたち 袴田京太郎」』静岡市美術館
- 2010 『人と毛布と熊と粘土』日本橋高島屋美術館X, 東京
- 2009 『変成態—リアルな現代の物質性vol.5』ギャラリーαM, 東京 [02]
- 2008-09 『公開制作44 1000層』府中市美術館, 東京
- 2007 『花と煙と人』ギャラリーエム, 愛知
- 2006 『1000層』コバヤシ画廊, 東京
- 2005 『家村珠代連続企画“ひとり”vol.1』ギャラリーMAKI, 東京
- 2002 『Blank』ギャラリーGAN, 東京 [00]

### | 主なグループ展 |

- 2011 うつしみ 木下晋×袴田京太郎, MA2 Gallery, 東京  
As Long As Rainbow Lasts, SOKA Art Center, 台北
- 2010 椿会展 Trans-Figurative, 資生堂ギャラリー, 東京 [09, '08]
- 2004 memento mori, 法然院講堂, 京都
- 2003 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2003, 十日町市GSIクレオス, 新潟
- 2002 東日本一彫刻39の造形美, 東京ステーションギャラリー, 東京
- 2001 第19回現代日本彫刻展, 宇部市野外彫刻美術館, 山口

他 個展、グループ展多数

## ◆ 東島 毅 (HIGASHIJIMA Tsuyoshi)



“遮るものもないことについて—another” 会場風景 | 2012年, 上野の森美術館, 東京  
(右)《雲の塔》2012 | 380×243 cm | 油彩、ハウスペイント、キャンバス  
(左)《南のくさび》2012 | 382×272 cm | 油彩、キャンバス

### | 略歴 |

- 1960 佐賀県生まれ
- 1986 筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術(絵画)専攻修了
- 1988-90 ローターリー財団奨学生としてロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)  
美術学部絵画専攻修士課程在籍
- 1990-96 ニューヨークにて制作
- 1996-97 五島記念文化賞美術部門新人賞受賞, 海外研修としてニューヨークに滞在
- 2002 文化庁芸術家在外研修員としてベルリン滞在

### | 主な個展 |

- 2012 『遮るものもないことについて—another』上野の森美術館, 東京
- 2011 『世界と孤独 vol.1 東島毅展』(企画: 袴田京太郎) 日本橋高島屋美術館X, 東京  
『遮るものもないことについて』海岸通ギャラリーCASO, 大阪 [05]
- 2010 『それぞれの方位の住人のために』海岸通ギャラリーCASO, 大阪
- 2009 『絵画 光を曲げる』INAXギャラリー-2, 東京
- 2008 第一生命南ギャラリー, 東京 [99, '97]  
『絵—PICTURE』国際芸術センター青森, 青森
- 2007 『Selected Works 1988-2006』岡山県立美術館, 岡山
- 2000 『近作展25 東島毅』国立国際美術館, 大阪  
『アートビジョン vil.5 東島毅展』成羽町美術館, 岡山

### | 主なグループ展 |

- 2010 『プライマリーフィールド II : 絵画の現在—七つの〈場〉との対話』  
神奈川県立近代美術館葉山, 神奈川  
『野村和弘/東島毅 みることをかんがえる』いわき市立美術館, 福島
- 2006 『VOCAに映し出された現在—いまいるところ/いまいるわたし』宇都宮美術館, 栃木
- 2001 『先立未来』ルイジパッチ現代美術館, イタリア
- 2000 『印象派と光の表現—モネ、ルノワールから現代へ』ふくやま美術館, 広島

他 個展、グループ展多数